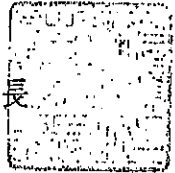


保医発1031第6号  
平成23年10月31日

地方厚生（支）局医療課長  
都道府県民生主管部（局）  
国民健康保険主管課（部）長  
都道府県後期高齢者医療主管部（局）  
後期高齢者医療主管課（部）長

殿

厚生労働省保険局医療課長



公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて

本年10月31日開催の薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会において、別添1の3成分7品目の適応外使用に係る公知申請についての事前評価が行われた結果、当該品目について公知申請を行っても差し支えないとの結論が得られたところです（別添2：平成23年10月31日付け薬食審査発1031第13号・薬食安発1031第6号）。これを踏まえ、別添1の3成分7品目について、今般追加される予定である効能・効果及び用法・用量において、本日より保険適用を可能とすることといたしましたので、貴管下の保険医療機関、審査支払機関等に対して周知徹底をお願いいたします。

1. 一般名：イホスファミド  
販売名：注射用イホマイド 1g  
会社名：塩野義製薬株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
悪性リンパ腫  
追加される予定の用法・用量：  
悪性リンパ腫の場合  
(1) 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、イホスファミドとして1日  $0.8\text{g}/\text{m}^2 \sim 3\text{g}/\text{m}^2$  (体表面積) を3～5日間連日点滴静注する。これを1コースとし、末梢白血球の回復を待って3～4週間ごとに反復投与する。なお、年齢、併用薬、患者の状態により適宜減量する。  
(2) 総投与量はイホスファミドとして1コース  $10\text{g}/\text{m}^2$  以下、小児では全治療コース  $80\text{g}/\text{m}^2$  以下とする。
2. 一般名：パクリタキセル  
販売名：タキソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg  
会社名：ブリストル・マイヤーズ株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
血管肉腫  
追加される予定の用法・用量：  
血管肉腫にはB法を使用する。
3. 一般名：パクリタキセル  
販売名：タキソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg  
会社名：ブリストル・マイヤーズ株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
再発又は遠隔転移を有する食道癌  
追加される予定の用法・用量：  
再発又は遠隔転移を有する食道癌にはB法を使用する。
4. 一般名：パクリタキセル  
販売名：タキソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg  
会社名：ブリストル・マイヤーズ株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌  
追加される予定の用法・用量：  
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌にはB法を使用する。
5. 一般名：パクリタキセル  
販売名：タキソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg  
会社名：ブリストル・マイヤーズ株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
進行又は再発の子宮頸癌  
追加される予定の用法・用量：  
子宮頸癌にはシスプラチンとの併用において、D法を使用する。  
D法：通常、成人にはパクリタキセルとして、1日1回  $135\text{mg}/\text{m}^2$  (体表面積) を24時間かけて点滴静注し、少なくとも3週間休薬する。これを1クールとして、投与を繰り返す。なお、投与量は、患者の状態により

適宜減量する。

追加される予定の用法・用量に関連する使用上の注意：

- ・D法では12時間毎の2回に分けて調製及び投与すること。本剤投与量の半量を250mLの5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液に混和し、12時間かけて点滴静注する。これを1回分として、2回連続して投与する。
- ・D法の前投薬はB法と同様に次のとおり行う旨。
  - ① 本剤投与約30分前までに投与を終了するように、デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム注射液（デキサメタゾンとして8mg）及びラニチジン塩酸塩注射液（ラニチジンとして50mg）又は注射用ファモチジン（ファモチジンとして20mg）を静脈内投与、ジフェンヒドラミン塩酸塩錠（ジフェンヒドラミン塩酸塩として50mg）を経口投与すること。
  - ② デキサメタゾンは初回投与時8mgとし、次回投与時までには過敏症状の発現がみられなかった場合又は臨床上特に問題のない過敏症状の場合は、2週目の投与より半量（4mg）に減量し投与してもよい。以降の投与週においても同様の場合、半量ずつ最低1mgまで減量し投与してもよい。

6. 一般名：パクリタキセル

販売名：タキソール注射液30mg、タキソール注射液100mg

会社名：ブリストル・マイヤーズ株式会社

対象の効能・効果：

卵巣癌

変更後の用法・用量：

卵巣癌にはA法又はカルボプラチンとの併用でC法を使用する。

C法：通常、成人にはパクリタキセルとして、1日1回80mg/m<sup>2</sup>（体表面積）を1時間かけて点滴静注し、週1回投与を3週連続する。これを1クールとして、投与を繰り返す。なお、投与量は、患者の状態により適宜減量する。

追加される予定の用法・用量に関連する使用上の注意：

- ・C法では250mLの5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液に混和し、1時間かけて点滴静注すること。
- ・C法の前投薬はB法と同様に次のとおり行う旨。
  - ① 本剤投与約30分前までに投与を終了するように、デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム注射液（デキサメタゾンとして8mg）及びラニチジン塩酸塩注射液（ラニチジンとして50mg）又は注射用ファモチジン（ファモチジンとして20mg）を静脈内投与、ジフェンヒドラミン塩酸塩錠（ジフェンヒドラミン塩酸塩として50mg）を経口投与すること。
  - ② デキサメタゾンは初回投与時8mgとし、次回投与時までには過敏症状の発現がみられなかった場合又は臨床上特に問題のない過敏症状の場合は、2週目の投与より半量（4mg）に減量し投与してもよい。以降の投与週においても同様の場合、半量ずつ最低1mgまで減量し投与してもよい。

7. 一般名：アンピシリンナトリウム

販売名：ビクシリン注射用0.25g、ビクシリン注射用0.5g、ビクシリン注射用1g、ビクシリン注射用2g

会社名：Meiji Seika ファルマ株式会社

対象の効能・効果：小児等における下記の効能・効果

<適応菌種>

アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、炭疽菌、放線菌、大腸菌、赤痢菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、リステリア・モノサイトゲネス

<適応症>

敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、肝膿瘍、感染性腸炎、子宮内感染、化膿性髄膜炎、眼瞼膿瘍、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱、炭疽、放線菌症

追加される予定の小児等の用法・用量：

小児

アンピシリンとして、通常、小児には1日100-200mg/kg（力価）を3-4回に分けて日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し静脈内注射又は点滴静注する。なお、症状・病態に応じて適宜増量とするが、投与量の上限は1日400mg/kg（力価）までとする。

新生児

アンピシリンとして、通常、新生児には1日50-200mg/kg（力価）を2-4回に分けて日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し静脈内注射又は点滴静注する。

薬食審査発 1031 第 13 号  
薬食安発 1031 第 6 号  
平成 23 年 10 月 31 日

各 〔 都 道 府 県 〕  
〔 保健所設置市 〕 衛生主管部 (局) 長 殿  
〔 特 別 区 〕

厚生労働省医薬食品局審査管理課長

厚生労働省医薬食品局安全対策課長

新たに薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する  
事前評価を受けた医薬品の適応外使用について

薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品については、平成 22 年 8 月 30 日付薬食審査発 0830 第 9 号・薬食安発 0830 第 1 号厚生労働省医薬食品局審査管理課長及び安全対策課長通知「薬事・食品衛生審議会において公知申請に関する事前評価を受けた医薬品の適応外使用について」(以下「連名通知」という。)にて各都道府県衛生主管部(局)長宛て通知したところですが、平成 23 年 10 月 31 日開催の薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会において、別添の医薬品について、医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議報告書に基づき、公知申請についての事前評価が行われ、公知申請を行っても差し支えないとされました。

つきましては、別添の医薬品について、連名通知における取扱いと同様の取扱いを行っていただきますよう、貴管下関係医療機関及び関係製造販売業者に対する周知徹底及びご指導方よろしくお願いいたします。

(別添)

1. 一般名：イホスファミド  
販売名：注射用イホマイド 1g  
会社名：塩野義製薬株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
悪性リンパ腫  
追加される予定の用法・用量：  
悪性リンパ腫の場合  
(1) 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、イホスファミドとして1日  $0.8\text{g}/\text{m}^2 \sim 3\text{g}/\text{m}^2$  (体表面積) を3～5日間連日点滴静注する。これを1コースとし、末梢白血球の回復を待って3～4週間ごとに反復投与する。なお、年齢、併用薬、患者の状態により適宜減量する。  
(2) 総投与量はイホスファミドとして1コース  $10\text{g}/\text{m}^2$  以下、小児では全治療コース  $80\text{g}/\text{m}^2$  以下とする。
2. 一般名：パクリタキセル  
販売名：タキソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg  
会社名： Bristol・マイヤーズ株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
血管肉腫  
追加される予定の用法・用量：  
血管肉腫にはB法を使用する。
3. 一般名：パクリタキセル  
販売名：タキソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg  
会社名： Bristol・マイヤーズ株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
再発又は遠隔転移を有する食道癌  
追加される予定の用法・用量：  
再発又は遠隔転移を有する食道癌にはB法を使用する。
4. 一般名：パクリタキセル  
販売名：タキソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg  
会社名： Bristol・マイヤーズ株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌  
追加される予定の用法・用量：  
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌にはB法を使用する。
5. 一般名：パクリタキセル  
販売名：タキソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg  
会社名： Bristol・マイヤーズ株式会社  
追加される予定の効能・効果：  
進行又は再発の子宮頸癌  
追加される予定の用法・用量：  
子宮頸癌にはシスプラチンとの併用において、D法を使用する。  
D法：通常、成人にはパクリタキセルとして、1日1回  $135\text{mg}/\text{m}^2$  (体表面積) を24時間かけて点滴静注し、少なくとも3週間休薬する。これ

を1クールとして、投与を繰り返す。なお、投与量は、患者の状態により適宜減量する。

追加される予定の用法・用量に関連する使用上の注意：

- ・D法では12時間毎の2回に分けて調製及び投与すること。本剤投与量の半量を250mLの5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液に混和し、12時間かけて点滴静注する。これを1回分として、2回連続して投与する。
- ・D法の前投薬はB法と同様に次のとおり行う旨。
  - ① 本剤投与約30分前までに投与を終了するように、デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム注射液（デキサメタゾンとして8mg）及びラニチジン塩酸塩注射液（ラニチジンとして50mg）又は注射用ファモチジン（ファモチジンとして20mg）を静脈内投与、ジフェンヒドラミン塩酸塩錠（ジフェンヒドラミン塩酸塩として50mg）を経口投与すること。
  - ② デキサメタゾンは初回投与時8mgとし、次回投与時までに過敏症状の発現がみられなかった場合又は臨床上特に問題のない過敏症状の場合は、2週目の投与より半量（4mg）に減量し投与してもよい。以降の投与週においても同様の場合、半量ずつ最低1mgまで減量し投与してもよい。

6. 一般名：パクリタキセル

販売名：タギソール注射液 30mg、タキソール注射液 100mg

会社名：ブリストル・マイヤーズ株式会社

対象の効能・効果：

卵巣癌

変更後の用法・用量：

卵巣癌にはA法又はカルボプラチンとの併用でC法を使用する。

C法：通常、成人にはパクリタキセルとして、1日1回80mg/m<sup>2</sup>（体表面積）を1時間かけて点滴静注し、週1回投与を3週連続する。これを1クールとして、投与を繰り返す。なお、投与量は、患者の状態により適宜減量する。

追加される予定の用法・用量に関連する使用上の注意：

- ・C法では250mLの5%ブドウ糖注射液又は生理食塩液に混和し、1時間かけて点滴静注すること。
- ・C法の前投薬はB法と同様に次のとおり行う旨。
  - ① 本剤投与約30分前までに投与を終了するように、デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム注射液（デキサメタゾンとして8mg）及びラニチジン塩酸塩注射液（ラニチジンとして50mg）又は注射用ファモチジン（ファモチジンとして20mg）を静脈内投与、ジフェンヒドラミン塩酸塩錠（ジフェンヒドラミン塩酸塩として50mg）を経口投与すること。
  - ② デキサメタゾンは初回投与時8mgとし、次回投与時までに過敏症状の発現がみられなかった場合又は臨床上特に問題のない過敏症状の場合は、2週目の投与より半量（4mg）に減量し投与してもよい。以降の投与週においても同様の場合、半量ずつ最低1mgまで減量し投与してもよい。

7. 一般名：アンピシリンナトリウム

販売名：ビクシリン注射用 0.25g、ビクシリン注射用 0.5g、ビクシリン注射用 1g、  
ビクシリン注射用 2g

会社名：Meiji Seika ファルマ株式会社

対象の効能・効果：小児等における下記の効能・効果

<適応菌種>

アンピシリンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、炭疽菌、放線菌、大腸菌、赤痢菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、リステリア・モノサイトゲネス

<適応症>

敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、肝膿瘍、感染性腸炎、子宮内感染、化膿性髄膜炎、眼瞼膿瘍、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱、炭疽、放線菌症

追加される予定の小児等の用法・用量：

小児

アンピシリンとして、通常、小児には1日100-200mg/kg（力価）を3-4回に分けて日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し静脈内注射又は点滴静注する。なお、症状・病態に応じて適宜増量とするが、投与量の上限は1日400mg/kg（力価）までとする。

新生児

アンピシリンとして、通常、新生児には1日50-200mg/kg（力価）を2-4回に分けて日局生理食塩液又は日局ブドウ糖注射液に溶解し静脈内注射又は点滴静注する。



○公知申請に係る事前評価が終了した適応外薬の保険適用について(平成23年10月31日現在)

要旨提出者名	一般名称	販売名	会社名	公知とされた効能・効果等の概要 (今回の制度により薬事法承認上、適応外であっても保険適用とするもの)	保険適用日	薬事承認日
1 一般社団法人日本リウマチ学会 厚生労働省難治性血管炎に関する調査研究班	シクロホスファミド水和物	エンドキサン錠50mg 注射用エンドキサン100mg 注射用エンドキサン500mg	塩野義製薬	治療抵抗性の下記リウマチ性疾患 全身性エリテマトーデス、全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎、ウェグナー肉芽腫症、結節性多発動脈炎、Churg-Strauss症候群、大動脈炎症候群等)、多発性筋炎/皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、および血管炎を伴う難治性リウマチ性疾患	平成22年8月30日	平成23年2月23日
2 日本小児循環器学会	ワルファリンカリウム	ワルファリン錠0.5mg ワルファリン錠1mg ワルファリン錠5mg	エーザイ	[小児適応の追加] 血栓塞栓症(静脈血栓症、心筋梗塞症、肺塞栓症、脳塞栓症、緩徐に進行する脳血栓症等)の治療及び予防	平成22年8月30日	平成23年2月23日
3 日本胃癌学会	カベシタピン	ゼロード錠300	中外製薬	治療不能な進行・再発の胃癌	平成22年8月30日	平成23年2月23日
4 日本臨床腫瘍学会	ゲムシタピン塩酸塩	ジェムザール注射用200mg ジェムザール注射用1g	日本イーライリリー	がん化学療法後に増悪した卵巣癌	平成22年8月30日	平成23年2月23日
5 日本産科婦人科学会 日本婦人科腫瘍学会	ノグテカン塩酸塩	ハイカムテン注射用1.1mg	日本化薬	がん化学療法後に増悪した卵巣癌	平成22年8月30日	平成23年2月23日
6 一般社団法人日本核医学会	3-ヨードベンジルグアニジン(123I)注射液	ミオMIBG-1123注射液	富士フイルムRIファーマ	腫瘍シンテグラフィによる褐色細胞腫の診断	平成22年10月25日	平成23年5月20日
7 一般社団法人日本リウマチ学会 厚生労働省難治性血管炎に関する調査研究班	アザチオプリン	イムラン錠50mg アザニン錠50mg	グラクソ・スミスクライン 田辺三菱製薬	治療抵抗性の下記リウマチ性疾患 全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎、ウェグナー肉芽腫症、結節性多発動脈炎、Churg-Strauss症候群、大動脈炎症候群等)、全身性エリテマトーデス(SLE)、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、および難治性リウマチ性疾患	平成22年10月25日	平成23年5月20日
8 日本小児血液学会 日本小児がん学会	エプトコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	注射用ノボセプン1.2mg 注射用ノボセプン4.8mg ノボセプンHI静注用1mg ノボセプンHI静注用2mg	ノボ ノルディスクファーマ	GP IIb-IIIa 及び/又はHLA に対する抗体を保有し、血小板輸血不応状態が過去又は現在見られるクランツマン血小板無力症患者の出血傾向の抑制	平成22年10月25日	平成23年6月16日
9 一般社団法人日本頭痛学会	バルプロ酸ナトリウム	デバケン100mg 錠 デバケン200mg 錠 デバケン細粒20% デバケン細粒40% デバケンシロップ5% デバケンR 100mg 錠 デバケンR 200mg 錠	協和発酵キリン	片頭痛の発症抑制	平成22年10月29日	平成23年6月16日
10 日本小児循環器学会	ベラパミル塩酸塩	①ワソラン静注5mg ②ワソラン錠40mg	エーザイ	[小児適応の追加] ①ワソラン静注5mg 頻脈性不整脈(発作性上室性頻拍、発作性心房細動、発作性心房粗動) ②ワソラン錠40mg 頻脈性不整脈(心房細動・粗動、発作性上室性頻拍)	平成22年10月29日	平成23年5月20日
11 日本産科婦人科学会	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D 人免疫グロブリン 防注用1000倍「ベネシス」 抗D グロブリン防注用 1000倍「ニテヤク」	ベネシス 日本製薬	[効能・効果の変更(拡大)] D (Rho) 陰性で以前にD (Rho) 因子で感作を受けていない女性に対し、以下の場合に投与することにより、D (Rho) 因子による感作を抑制する。 ・分娩後、流産後、人工妊娠中絶後、異所性妊娠後、妊娠中の検査・処置後(羊水穿刺、胎位外転術等)及び腹部打撲後等のD (Rho) 感作の可能性がある場合 ・妊娠28週前後 ※従来から保険給付の対象とならない処置、検査、手術その他の行為により本剤の投与が必要となる場合は保険適用とならない。	平成22年10月29日	平成23年5月20日
12 日本先天代謝異常学会	レボカルニチン塩化物	エルカルテン錠100mg エルカルテン錠300mg	大塚製薬	[効能・効果の変更(拡大)] カルニチン欠乏症	平成22年10月29日	平成23年3月10日
13 日本LOH研究会 厚生労働省難治性疾患克服研究事業「乳児ランゲルハンス細胞組織球症の病態解明と診療研究班」	ピンプラステン硫酸塩	エクザール注射用10mg	日本化薬	ランゲルハンス細胞組織球症	平成22年10月29日	平成23年3月10日
14 日本心不全学会	ビスプロロール fumarate	メインテート錠2.5 メインテート錠5	田辺三菱製薬	次の状態で、アンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンII受容体拮抗薬、利尿薬、ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者 虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全	平成22年11月12日	平成23年5月20日
15 小児腎臓病学会	メチルプレドニゾンコハク酸エステルナトリウム	ソル・メドロール静注用40mg ソル・メドロール静注用125mg ソル・メドロール静注用500mg ソル・メドロール静注用1000mg	ファイザー	ネフローゼ症候群	平成22年11月24日	平成23年5月20日

16	日本内分泌学会 日本小児内分泌学会	リュープロレリン酢酸塩	リュープリン注射用 1.88 リュープリン注射用 3.75	武田薬品工業	[用法・用量の変更] (中樞性思春期早発症について) 通常、4週に1回リュープロレリン酢酸塩として30μg/kgを皮下に投与する。 なお、症状に応じて180μg/kgまで増量できる。	平成22年11月24日	平成23年5月20日
17	日本結核病学会	エタンプトール塩酸塩	エサンプトール錠 125mg エサンプトール錠 250mg エプトール125mg錠 エプトール250mg錠	サンド 科研製薬	[効能・効果の変更(追加)] (適応菌種) 本剤に感性的マイコバクテリウム属(適応症) 肺結核及びその他の結核症、マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症	平成22年11月29日	平成23年5月20日
18	日本結核病学会	リファンピシン	リファジンカプセル 150mg ※)リマクタンカプセル 150mg リファンピシンカプセル 150mg「サンド」	第一三共 サンド	[効能・効果の変更(追加)] (適応菌種) 本剤に感性的マイコバクテリウム属(適応症) 肺結核及びその他の結核症、マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症を含む非結核性抗酸菌症、ハンセン病	平成22年11月29日	平成23年5月20日
19	日本小児腎臓病学会	シクロホスファミド水和物	エンドキサン錠50mg	塩野義製薬	ネフローゼ症候群(副腎皮質ホルモン剤による適切な治療を行っても十分な効果がみられない場合に限る。)	平成23年4月27日	平成23年9月16日
20	日本小児腎臓病学会	ミコフェノール酸 モフェチル	セルセプトカプセル250	中外製薬	[小児適応の追加] 腎移植における拒絶反応の抑制	平成23年4月27日	平成23年9月16日
21	日本内分泌学会 日本小児内分泌学会	メチラボン	メピロンカプセル250mg	ノバルティス ファーマ	クッシング症候群	平成23年4月27日	
22	日本臨床腫瘍学会	イマチニブメシル酸塩	グリベック錠100mg	ノバルティス ファーマ	FIP1L1-PDGFRα陽性の下記疾患 好酸球増多症候群、慢性好酸球性白血病	平成23年4月28日	
23	厚生労働省わが国における 多発性内分泌腫瘍症の診 療実態把握とエビデンスに 基づく診療指針の作成研究 班	オクトレオチド酢酸塩	サンドスタチンLAR筋 注用10mg サンドスタチンLAR筋 注用20mg サンドスタチンLAR筋 注用30mg パラプラチン注射液 50mg パラプラチン注射液 150mg パラプラチン注射液 450mg	ノバルティス ファーマ	消化管神経内分泌腫瘍	平成23年4月28日	
24	日本乳癌学会 日本臨床腫瘍学会 あけぼの神奈川 個人	カルボプラチン	パラプラチン注射液 50mg パラプラチン注射液 150mg パラプラチン注射液 450mg	プリストル・マイ ヤーズ	乳癌	平成23年4月28日	
25	日本乳癌学会	トラスツズマブ(遺伝子 組換え)	ハーセプチン注射用60 ハーセプチン注射用 150	中外製薬	HER2過剰発現が確認された乳癌にお ける術前補助化学療法	平成23年4月28日	
26	日本乳癌学会	トラスツズマブ(遺伝子 組換え)	ハーセプチン注射用60 ハーセプチン注射用 150	中外製薬	[用法・用量の変更] (HER2過剰発現が確認された転移性乳 癌について) HER2過剰発現が確認された転移性乳 癌にはA法又はB法を使用する。 A法:通常、成人に対して1日1回、トラス ツズマブとして初回投与時には4mg/kg (体重)を、2回目以降は2mg/kgを90分 以上かけて1週間間隔で点滴静注する。 B法:通常、成人に対して1日1回、トラス ツズマブとして初回投与時には8mg/kg (体重)を、2回目以降は6mg/kgを90分 以上かけて3週間間隔で点滴静注する。 なお、初回投与の忍容性が良好であれば、 2回目以降の投与時間は30分間ま で短縮できる。	平成23年4月28日	
27	日本感染症学会 日本小児血液学会 日本小児がん学会	フルコナゾール	ジフルカンカプセル50 mg ジフルカンカプセル100 mg ジフルカン静注液50 mg ジフルカン静注液100 mg	ファイザー	[小児適応の追加] カンジダ属及びクリプトコッカス属による 下記感染症 真菌血症、呼吸器真菌症、消化管真菌 症、尿路真菌症、真菌髄膜炎	平成23年4月28日	
28	日本小児血液学会 日本小児がん学会	フルコナゾール	ジフルカンカプセル50 mg ジフルカンカプセル100 mg ジフルカン静注液50 mg ジフルカン静注液100 mg ジフルカン静注液 200mg	ファイザー	造血幹細胞移植患者における深在性真 菌症の予防	平成23年4月28日	
29	日本放射線腫瘍学会 日本医学放射線学会	グラニセトロン塩酸塩	カイトリル錠1mg カイトリル錠2mg カイトリル細粒0.4% カイトリル注1mg カイトリル注3mg カイトリル点滴静注 バッグ3mg/50mL カイトリル点滴静注 バッグ3mg/100mL	中外製薬	放射線照射に伴う消化器症状(悪心、嘔 吐)	平成23年7月29日	
30	日本脳神経外科学会	インドシアニングリーン	ジアグノグリーン注射 用25mg	第一三共	脳神経外科手術時における脳血管の造 影(赤外線照射時の蛍光測定による)	平成23年7月29日	

31	日本感染症教育研究会 日本感染症学会	ベンジルペニシリンカリウム	注射用ペニシリンGカリウム20万単位 注射用ペニシリンGカリウム100万単位	Meiji Seika ファルマ	<適応菌種> 梅毒トレポネーマ <適応症> 梅毒	平成23年8月1日
32	日本産科婦人科学会 日本周産期新生児医学会 性の健康医学財団	メロニダゾール	フラジール内服錠 250mg フラジール錠250mg	塩野義製薬	<適応菌種> 本剤に感性的のガードネラ・バジナリス、 バクテロイデス・フラジリス、プレボテラ・ ピビア、ペプトストレプトコッカス属、モビ ルンカス属 <適応症> 細菌性陰症	平成23年8月1日
33	日本産科婦人科学会 日本婦人科腫瘍学会 日本臨床腫瘍学会 卵巣がん体験者の会スマイリー	エトポシド	ラストットSカプセル 25mg ラストットSカプセル 50mg ベプシドカプセル25mg ベプシドカプセル50mg	日本化薬 ブリストル・マイヤーズ	がん化学療法後に増悪した卵巣癌	平成23年8月1日
34	日本胆道学会 日本消化学会 日本外科学会 胆嚢友の会 厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業(第3次対がん総合戦略研究事業)「切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究」研究班 日本臨床腫瘍学会 東北大学病院腫瘍内科 東北大学加齢医学研究所 癌化学療法研究分野 個人	シスプラチン	プリプラチン注10mg プリプラチン注25mg プリプラチン注50mg ランダ注10mg/20mL ランダ注25mg/50mL ランダ注50mg/100mL	ブリストル・マイヤーズ 日本化薬	胆道癌	平成23年8月1日
35	日本化学療法学会	アモキシシリン水和物	サワシリン細粒10% サワシリンカプセル125 サワシリン錠250 サワシリン錠250 パセトシン細粒10% パセトシンカプセル125 パセトシン錠250	アステラス製薬 協和発酵キリン	【小児適応の追加】 ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症	平成23年8月1日
36	日本感染症学会	セフォタキシムナトリウム	クラフォラン注射用0.5g クラフォラン注射用1g	サノフィ・アベンティス	【小児適応の追加】 化膿性髄膜炎	平成23年8月1日
37	小児血液学会 小児がん学会	イホスファミド	注射用イホマイド1g	塩野義製薬	悪性リンパ腫	平成23年10月31日
38	日本皮膚悪性腫瘍学会 日本臨床腫瘍学会 個人	バクリタキセル	タキソール注射液 30mg タキソール注射液 100mg	ブリストル・マイヤーズ	血管肉腫	平成23年10月31日
39	日本食道学会 日本臨床腫瘍学会	バクリタキセル	タキソール注射液 30mg タキソール注射液 100mg	ブリストル・マイヤーズ	再発又は遠隔転移を有する食道癌	平成23年10月31日
40	日本耳鼻咽喉科学会 日本臨床腫瘍学会	バクリタキセル	タキソール注射液 30mg タキソール注射液 100mg	ブリストル・マイヤーズ	再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌	平成23年10月31日
41	日本産科婦人科学会 日本婦人科腫瘍学会	バクリタキセル	タキソール注射液 30mg タキソール注射液 100mg	ブリストル・マイヤーズ	進行又は再発の子宮頸癌	平成23年10月31日
42	日本臨床腫瘍学会 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構 卵巣がん体験者の会スマイリー	バクリタキセル	タキソール注射液 30mg タキソール注射液 100mg	ブリストル・マイヤーズ	【用法・用量の変更】 卵巣癌にはA法又はカルボプラチンとの併用でC法を使用する。 C法:通常、成人にはバクリタキセルとして、1日1回80mg/m <sup>2</sup> (体表面積)を1時間かけて点滴静注し、週1回投与を3週連続する。これを1クールとして、投与を繰り返す。なお、投与量は、患者の状態により適宜減量する。	平成23年10月31日
43	日本感染症学会	アンピシリンナトリウム	ピクシリン注射用 0.25mg ピクシリン注射用0.5mg ピクシリン注射用1g ピクシリン注射用2g	Meiji Seika ファルマ	【小児適応の追加】 (適応菌種) アンピシリンに感性的のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、淋菌、髄膜炎菌、炭疽菌、放線菌、大腸菌、赤痢菌、プロテウス・ミラビリス、インフルエンザ菌、リステリア・モノサイトゲネス (適応症) 敗血症、感染性心内膜炎、表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、乳腺炎、骨髄炎、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、肺膿瘍、膿胸、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、淋菌感染症、腹膜炎、肝膿瘍、感染性腸炎、子宮内感染、化膿性髄膜炎、眼瞼膿瘍、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎、抜歯創・口腔手術創の二次感染、猩紅熱、炭疽、放線菌症	平成23年10月31日

※リマクタンカプセル150mgは経過措置品目のため、平成23年4月1日以降使用医薬品から除外されている。